

2021年6月22日

(臨床研究に関する公開情報)

岡山医療センターでは、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名]

85歳以上肺癌手術症例の予後に関する検討

[研究責任者]

呼吸器外科 医長 平見 有二

[研究の背景]

胸部外科学会の学術調査によれば2014年の肺癌手術症例は38,805例で80歳以上の症例は12.1%に及んでおり、肺癌手術における超高齢者の割合は年々増加しています。厚生労働省の平成27年度の簡易生命表によれば85歳男性の平均余命は6.3年で、女性では8.4年と報告されており、85歳以上の症例に対しても肺癌手術を行う意義はあると考えられます。

しかし、その希少性から、85 歳以上の症例に対する肺癌手術の妥当性を客観的に示した報告は少ない現状です。3 年以内の他病死亡例は、呼吸器疾患や心疾患など何らかの併存症を有していました。また、高齢者の周術期の合併症についての報告は散見されますが、術後数年以内（短中期的）の予後についての報告は少ないのが現状です。実際、2009 年から 2013 年 3 年間での 80 歳以上の stage I 期肺癌症例 69 例の検討では、3 年以内の原癌死が 4 例（6%）に過ぎないのに対し、3 年以内の他病死亡例は 16 例（23%）に及び、3 年以内死亡の 8 割が他病死亡との結果でした。この結果からは胸腔鏡手術による低侵襲化や周術期管理の向上により周術期を乗り越えることができても、併存症を持つような高齢者に関しては他疾患により術後数年以内に失っている現状があるとも言えます。呼吸器外科学会が出しているガイドラインである「肺癌手術の呼吸機能からのリスク評価の指針」を高齢者にあてはめて手術適応を検討していいのかなど高齢者を診療するにあたって検討すべき点は多々あると考えます。他病死亡を含めた短中期的予後を検討することで 85 歳以上の肺癌手術予後不良因子を示すことは今後の肺癌診療にとって有意義であると考えます。

[研究の目的]

85 歳以上の高齢者肺癌に対する肺切除術の妥当性を検討するとともに、短中期的予後不良因子についても検討し、実臨床における治療方針決定の判断材料を提供することです。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

2006年1月から2015年12月まで間に当院で肺癌手術を受けられた、85歳以上の患者さんが対象です。

●研究期間

当院の臨床研究審査委員会承認後より **2022年6月30日**までの予定です。

●カルテ情報

以下の情報をカルテより収集します。

年齢、性別、併存疾患、血液検査、呼吸機能検査、手術術式、術後合併症 など

●検体や情報の管理

情報は当院のみで利用します。

[研究組織]

この研究は、下記の岡山大学呼吸器外科研究会に所属する施設と共同で実施されます。

岡山大学病院（事務局）、岡山赤十字病院（研究担当）、岡山医療センター、

岡山済生会病院、岡山労災病院、姫路赤十字病院、岩国医療センター、

広島市立市民病院、四国がんセンター、愛媛大学附属病院、山口宇部医療センター

[個人情報の取扱い]

情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は岡山大学呼吸器外科研究会による共同研究として、国内外の学会および論文にて発表しますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。情報は、当院の研究責任者が責任をもって

適切に管理いたします。

[問い合わせ先]

独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター

呼吸器外科 平見 有二

電話 086-294-9911 (代表) FAX 086-294-9255 (代表)